

4段階評価	4 期待以上	3 ほぼ期待どおり	2 やや期待を下回る	1 改善を要する
-------	--------	-----------	------------	----------

学校経営 ビジョン	夢や目標をもてるよう「導き」、身に付く力となるよう「鍛え」、一人一人に「寄り添い」ながらニーズに合った指導や支援を行い、成長や変化を「見届け」て工夫・改善に取り組むことで、児童が「明日も行きたいと感じる学校」の実現を目指す。
--------------	--

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	具体的な取組	自己評価		結果の考察・分析および改善策等
			取組別	総合	
知 育	重点目標： <u>学力の向上</u> 手段： 1 児童がわかる・できると感じる授業実践 2 児童一人一人の実態に応じたきめ細かな指導 3 考えや思いを積極的に表現する力の育成 4 家庭学習の充実	1について (1) 主体的・対話的で深く学ぶ学習の推進 (2) ICTの授業活用1日1回以上100%	2.9	3.1	1について (1)について ・主体的な態度で学習に取り組めるようにはなっているが、対話的に学ぶことに関しては課題がある。そこで、児童が対話をしたくなるような授業の流れや児童自身にも対話を通して学ぶ良さを感じさせるような手立てが必要である。 (2)については ・「1日1回以上」という目標を設定した結果だと考える。職員のICT活用に対する意識は、校内研修等により高まってきている。今後は、ICT機器の活用が学力向上につながっているのか、効果的な活用方法であるかを見極める指標の検討が必要である。
		2について (1) 学力向上タイムを生かした基礎基本の定着 (2) 各学力テストの分析に基づいた指導の充実 (3) 計算、漢字コンテストの年2回実施と指導の充実			3.1
		3について (1) 生徒指導の3機能に留意した指導 (2) 年間を見通した計画的な作品応募	3.0	3について (1)について ・それぞれの学年の実態に応じて、担任が「生徒指導の三機能を生かした指導」をしていたと思う。「自己肯定感の高揚」「自己決定の場の設定」「共感的人間関係の醸成」に関わる児童の実態把握をするために、「悩みアンケート」の中に設問を追加し、まずは、児童の実態や変容をつかむようにしたい。効果的な「声かけ方」や「指導方法」などを共有できる場を設定したい。授業だけでなく、生活指導場面でも生徒指導の三機能を意識して指導できるとようにしたい。 (2)について ・作品募集の案内が年間通して不定期に届く。その都度、係が知らせたり精選したりせず、担任に見ていただけるような掲示コーナーを設けるようにしたい。	
		4について (1) 授業と連動した宿題の精選	3.3	4について (1)について ・「連動した宿題」とはどのようなものなのかを職員間で共通理解していく必要がある。 ・宿題の量の中で、「保護者の意見」「児童の感想」から、「多すぎる」という意見があった。学年間での連絡調整をし、保護者に理解と納得が得られるような説明ができるとよい。	
徳 育	重点目標： <u>豊かな心の育成</u> 手段： 1 基本的な生活習慣の形成 2 豊かな感性の育成 3 道徳教育、人権・同和教育の充実 4 いじめ・不登校の未然防止と早期発見・早期解決	1について (1) 「あいさつ」「返事」「言葉遣い」の継続指導 (2) 規範意識を高める指導(紙屋っ子の約束)	3.1	3.1	1について (1)について ・前年度よりは規範意識は高まってきたが、行事の後などはできていないこともあり、年間通して徹底指導していく必要がある。 ・意識を高めるために、具体的な姿を各学年学級で話し合い、自己評価の表に評価基準を明記するようにしたい。
		2について (1) 読書量年間冊数下学年100冊、上学年50冊達成率70% (2) 朝の読み聞かせとハートタイムの実施			2.8
		3について (1) 「考え議論する」道徳科授業の充実 (2) 道徳教育・人権同和教育の充実(年2回の人権に関わる授業の実施)	3.1	3について (2)について ・年間指導計画にのっとり授業を実施できた。年間通して、SSTやSGEなどを計画的に行っていく必要がある。	
		4について (1) いじめの認知解消率100%、不登校0 (2) 教育相談体制の充実	3.4	4について (1)及び(2)について ・毎月、個別に話を聞く時間をとることができている。職員間での共有もできているため、学校全体で子どもたちを見守ることにつながった。	
体 育	重点目標： <u>体力の向上</u> 手段： 1 規則正しい生活習慣の育成 2 体力向上の推進 3 立腰指導と正しい鉛筆握り、箸使いの徹底 4 「自分の命は自分で守る」意識の醸成	1について (1) 「早寝・早起き・朝ご飯」+「排便・歩いて登校」の児童達成率80%	3.0	2.8	1について (1)について ・「早寝・早起き・朝ご飯」については、どの学年もできていた。「排便・歩いて登校」については、偏りが見られた。「排便」については、87%が毎日排便をしていた。「歩いて登校」は、74.5%ができていて、歩いて登校する児童と送ってもらう児童と偏りが見られた。通信等で呼びかけて「歩いて登校」を促していく。
		2について (1) 体力向上のための準備運動の工夫(瞬発力を高める運動を取り入れる) (2) 2学年合同体育による技能、競技力の向上			2.4
		3について (1) 授業前・授業中の立腰指導の徹底 (2) 正しい鉛筆の握り方定着100%	2.9	3について (1)について ・立腰指導の徹底については、始業前後の号令時にはできるが、授業中の文字を書く時や話を聞く時は、できていない児童もいるので、随時指導が必要である。 (2)について ・鉛筆の握り方については、学年が上がるにつれて定着率が下がる傾向にあるので、随時指導が必要である。	

		4について (1) 各種避難訓練の充実 (2) 登校班指導の徹底	3.1		4について (2)について ・登校班の指導については、問題があった場合は、生徒指導部及び地区担当職員が随時指導をしていた。引き続き、全職員で指導をしていく。
食育	重点目標： <u>望ましい食習慣の育成</u>  手段： 1 個に応じた給食指導と食事マナーの徹底 2 栄養教諭・養護教諭の連携による食育の推進 3 食を通じた感謝の心の醸成 4 家庭・地域等との連携による食への意識の向上	1について (1) 計画的な給食指導の実施と食べ残し0 (2) アレルギー対策の徹底	3.3	3.3	1について (1)について ・食べ残しについては、残食0の学年もあるが、残食のある学年もある。学校だけでなく家庭でも好き嫌いをなく食べるように啓発を図っていく必要がある。
		2について (1) 指導計画に基づいた給食主任・栄養教諭等を活用した食育指導の実施	2.7		2について (1)について ・栄養教諭不在の日が続いたため、実施にいたっていない。栄養教諭による指導ができるよう調整をしていきたい。
		3について (1) 食に関する学級活動・家庭科授業、給食感謝週間の充実による感謝の心の醸成	3.5		3について (1)について ・家庭科の授業において、食に関する授業などにも取り組むことができた。3年生については、味覚の授業を実施したことで、食に関する意識が高まったと思われる。
		4について (1) 実践に結びつく年2回の「弁当の日」の充実 (2) 米作り・いも作り等による食育の推進	3.7		4について (1)について ・弁当の日を2回計画し、みんな弁当作りに参加することができた。保護者に頼ながら作る児童も見られたが、弁当作りを家族と一緒にすることで、食への関心が高まったり、感謝の念をもつようになり、「ありがとう」を家族に言っている児童が半数以上いた。弁当の日に限らずチャレンジしてほしいと感じた。 ・保護者からは、「一緒に作って楽しかった。」「今度は違うものにもチャレンジしてほしい。」などの反応があった。一緒に台所に立つことで、子どもの成長を感じている保護者がほとんどであった。 (2)について ・収穫した芋を使い全学年が芋料理に取り組んだ。芋栽培でお世話をしてくださった方々への感謝をするとともに次年度への活動への意欲付けにもなった。
その他	教職員の働き方改革  手段： 1 リフレッシュデーの実施 2 全職員による施錠管理	1について (1) 水・金曜日のリフレッシュデー（17：15退庁）の完全実施	2.5	2.9	1について (1)について ・16：30の退庁時刻を意識した毎日のゴールを各職員が意識しながら職務にあたる必要がある。そのため業務に対する取り組み方への軽重をつけたり、行事内容の取捨選択を行ったりする。
		2について (2) 全職員の協力による施錠管理	3.3		2について (2)について ・全職員で学校の基本管理を実施するという意識を引き続き高めていく必要がある。

次年度の方 向性について の校長所見	<p><b>本年度の取組と次年度に向けた改善について</b></p> <p>今年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響で予定していた教育活動を十分に行うことができなかった。しかし、そのような状況においても教育目標の達成に向けて、全職員が一丸となって指導を行うことができた。昨年度と比較して知育・徳育・体育・食育の全ての項目で評価指数を上回っていることから職員への指導に対する前向きな姿勢を確認することができる。本年度課題としてあげられている内容については、児童一人一人に寄り添いながら、学習内容の定着及び基本的な生活習慣の確立等を目指し努力していく。次年度以降も新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた取組を行いつつ、地域と連携し信頼される学校づくりに精進していく。</p>
--------------------------	---